

第59回通常総会・協会設立30周年記念事業

初夏を想わせる好天に恵まれた5月16日、第59回通常総会が滞りなく開催され、総会に引き続き協会設立30周年記念事業として記念講演会、記念祝典が盛会裏に開催されました。



第59回通常総会

[第59回通常総会]

- 1 開催日時 平成24年5月16日（水）14時00分～15時30分（臨時理事会で15分間中断）
- 2 開催場所 生田神社会館 3階 菊
- 3 出席会員 137社（委任状提出 57社を含む。）
- 4 結果

(1) 会長挨拶

第59回通常総会は、協会設立30周年を迎える中での開催となります。議案は、平成23年度事業報告及び収支決算報告、一般社団法人に向けての定款変更、役員の任期満了に伴う改選、これに伴う臨時理事会の開催等多くの議案が予定されています。

また総会後には30周年記念事業の記念講演会を開催し、園田学園女子大学名誉教授の田辺先生から「平清盛と神戸」をテーマに講演をいただきます。更に18時から多数の来賓をお招きし、記念祝典を開きます。長丁場となりますが、最後までよろしくお願いいたします。

30周年といっても社団法人としてのそれであり、その前には任意団体兵庫県電業協会として活動していました。同業者が集まり、情報交換や連携等会員のためにプラスとなる諸事業を実施していましたが、大手業者から同業者の集まりというのは、ともすれば世間から談合等のための集まりという目で見られがちであるという声が高まってきました。そこで一層の業界振興のため、そして世間に貢献できるようボランティア活動を中心にした社団法人を設立しようではないかという呼びかけがなされ、我々も賛同しまして兵庫県から許可を受けて当社団法人を設立したものであります。

その後順調に発展してきましたが、6年程前、同業者団体に加入していることが世間から色目で見られ得るという理由で、大手が上部団体である日本電設工業協会の支部が所在する電業協会以外からは一斉に退会するという状況となりました。協会の全収入の半分以上を大手の方に依存していただけに協会の存続が危ぶまれる事態に陥り、急遽当時の理事、委員の格別の理解のもと理事は通常会費の2倍、委員は1.5倍を臨時的に負担し、この危機を乗り越えました。そんな経緯を経て現在は、経審点数を基準に会費を定めた会則が整備され、会員各位に会費の負担をいただいているところです。

私が会長就任以来、常に皆さんにお願いしていますことは、協会の安定した運営のためには、一層の会員増強しかないということであります。今日現在は147社ですが、これが170社くらいにな

るとより安定した協会運営ができると考えています。皆さんの心当たりの方に、是非入会を勧めていただければ大変幸いです。

今日は長丁場となりますが、重ねて会員各位のご協力をよろしくお願い申し上げます。

(2) 議長選出

西村善明会長を議長に選出

(3) 議事録署名人選出

ダイトウ電気工事㈱大川康太郎氏及び東洋電気工事㈱合田吉伸氏を選出

(4) 議事

第1号議案 平成23年度事業報告に関する件、第2議案 平成23年度収支報告に関する件、第3号議案 一般社団法人兵庫県電業協会の定款案制定に関する件、第4号議案 議決文書に係る字句の修正の付帯決議案に関する件、第5議案 任期満了に伴う役員改選に関する件

いずれも、拍手多数で可決承認されました。

[第5号議案の可決後、総会を中断して臨時理事会を別室で開催（15：00～15：15の間）]

(5) 臨時理事会の結果報告

会長に平井伸幸、副会長に小山恵生、前田潮、山口節夫、専務理事に北野信雄の各氏を選出した旨また総務委員会委員長に大川康太郎、経営委員会委員長に合田吉伸、技術・安全委員会委員長に小坂佳秀の各氏を、また各委員会委員の委嘱も決定した旨、更に地区担当理事を選出した旨報告がなされました。

(6) 報告事項

臨時理事会において、満場一致で西村善明氏を相談役に委嘱することを決定した旨報告がなされました。

(7) 特別表彰

永年にわたり役員を務められこのたび退任された西村善明、金川次男、池田重男、向山和義の各氏に平井会長から感謝状並びに記念品が授与されました。

(8) 新入会員紹介

続いて正会員として入会いただいた㈱塚本電気設備様、㈱大同電機製作所様の紹介が行われ、総会は閉会しました。



西村会長挨拶



臨時理事会

[協会設立30周年記念事業]

協会設立30周年を記念し、16時00分から17時30分まで記念講演会を開催し、引き続き18時00分から20時30分まで記念祝典を開催しました。

(記念講演会)

神戸にゆかりの深い「平 清盛」がNHKで放送されていることに因み、地域の歴史に造詣の深い園田学園女子大学名誉教授の「田辺真人」先生をお招きし、「平清盛と神戸」をテーマに講演をいただきました。

講演では、平清盛が、保元の乱などを通じて権威を獲得していく過程や平氏の福原の荘の所在と大輪田の泊づくり、反平氏の動きと福原遷都への歴史の流れ、湊川と大輪田の泊、兵庫津との関係など地域史の中の課題にも触れながら分かりやすく、神戸の土地柄に根ざしたお話をいただき、108人にも上った出席者は興味深く、熱心に聴き入りました。



田辺講師



会場風景

(記念祝典)

会場を4階「富士」の間に移し、57人に上るご来賓の臨席をいただき、会員を合わせ総勢179人にも及ぶ出席者のもと盛大に記念祝典が開催されました。

祝典は和太鼓・獅子舞のオープニングに始まり、平井会長挨拶、吉本兵庫県副知事及び協会顧問の山口兵庫県議会議員の祝辞に続き来賓の一人一人が紹介され、神戸市長はじめ多数の皆様からいただいた祝電披露の後、協会設立30周年の活動に対する兵庫県知事からの表彰状が吉本副知事から平井会長に授与されました。

そして元神戸市会議員の高田顧問の乾杯により、歓談に入りました。歓談中には、学生達のジャズグループ「スイングジャズクルーズ in 神戸」による演奏、そして協会の30年の歴史をまとめたスライドショーの上映が行われ、大変和やかな中に祝典が進行し小山副会長の謝辞により閉演しました。

平井会長挨拶

本日、協会設立30周年を迎えるにあたり、吉本兵庫県副知事をはじめ多数の来賓の皆様方に祝典に花を添えていただき誠にありがとうございます。設立・運営に多大の努力があった役員・OBにも出席いただきました。協会を代表して厚く御礼を申し上げます。

私は先ほどの総会で、図らずも第8代の会長に選ばれました。力不足ではありますが協会の発展に少しでも貢献できればと思っていますので皆様方のご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。

さて、昭和57年6月1日兵庫県から設立許可を受け、203社の会員により発足した当協会は、来月で満30周年を迎えます。昭和57年といえば、ホテルニュージャパン火災、日航機の羽田沖での墜落事故等が起り、一方では東北新幹線の一部開通、500円硬貨の発行など明るい話題がありました。もう30年が経ち、改めて時の流れの早さを感じている次第であります。

阪神・淡路大震災を乗り越えて協会運営が水平飛行に入っていた中の平成18年、設立当初からの会員であった全国業者47社が一斉に退会され、協会が解散の危機を迎えました。実に25%の会員と1250万円の会費が失われました。事務所の移転、経費の削減、会費値上げ等出来ることから対策を実行し、それから6年更なる経費削減、会員増強に取組み、あと一步で健全経営ができるようになりました。今一度役員・会員各位の絶大なるご協力に厚く感謝をいたすところであります。現在は147社の正会員、15社の賛助会員で運営していますが、是非とも更なる会員の加入をお願い申し上げる次第であります。このような事情から今日は手づくりの祝典ではありますが、ゆっくりとご歓談いただければ大変幸いです。

来年4月には、一般社団法人としてリスタートを予定しています。より公益性を持った活動を実施するとともに会員にとって無くてはならない協会として発展していけるよう、さらに努力を重ねて参る所存でありますので、一層のご支援、ご協力を賜りますことをお願い申し上げ、開会の挨拶といたします。



平井新会長挨拶



表彰状授与



和太鼓・獅子舞



ジャズ演奏



スライドショー

吉本副知事祝辞

社団法人兵庫県電業協会設立30周年記念祝典が、盛大に開催されましたことに心からお祝い申し上げます。

平井様の会長ご就任をお祝い申し上げますとともに、勇退された西村前会長をはじめ電業協会の発展にご尽力された皆様方に厚く感謝を申し上げます。知事が公務のため急遽上京となりましたので、代わりまして私からご挨拶を申し上げます。どうかご了承いただきますようお願いいたします。

さて電業協会の皆様方には、県が地域振興事業を行うに当たっての様々な支援、協力や高校生のインターンシップをはじめ子供の防犯パトロール、災害時の応援協定など社会貢献の分野でも多大の尽力をいただいています。各位のこれまでのご努力に改めて感謝を申し上げます。

さて、東日本大震災から一年少しが経過します。阪神・淡路大震災を経験した県として様々な支援を行っています。現地にこれまで県・市町の職員延べ10万人程度を派遣し、今も約100人が現地に

入っています。復旧から復興に向け、土地区画整理や公営住宅の復興などの業務を担うため、まちづくり部からも多くの職員が支援に携わっています。

当電業協会からは、昨年総会懇親会を中止してまでして多額の義援金を頂戴いたしました。被災県として義援金を呼びかけていましたが、府県の中では断トツの20数億円の拠出を県民からいただきました。これを単に被災した方々にお渡しするだけでは一人ひとりでは少額となってしまいます。そこで被災県らしい支援をしていこうということになり、コミュニティを壊さないように復興が進められるよう、復興地域に集会所を建設していただいたらどうかと被災地の知事に提案し、義援金をお贈りした次第であります。実際のところ復興はこれから本格化していきますので、今は各県で基金として積み立てられているところですが、復興なった時には地域を支える目に見える支援として皆さんからの義援金が活用されていることになると考えています。

一方、当地としても中央防災会議での津波災害への指摘も踏まえ、そのインフラ対策をしっかりと行うこととしております。電気が止まると大変なことになる水門扉や病院などへの対策が必要でありますし、浸水箇所の嵩上げ工事、避難所の耐震補強など様々な対策に取り組んでいるところです。

また今年の電力事情がどうなるか、今はよく分かりませんが相当な節電努力が必要になるかも知れません。県としても省エネ事業を促進するため、家庭の太陽光パネル設置に対する助成金や融資制度の創設、相談センターの開設や専門家派遣による技術支援などを進めています。中小企業に対するクリーンエネルギー設備設置に係る融資制度についてもより低利なものとし、節電努力を支援したいと考えています。これらを現実に担っていただけるのは、電業協会の皆様方であります。PR・ご支援をよろしくご願ひ申し上げます。

県民にとって「快適な生活」、「安全・安心の生活」は、電気が無ければ実現できません。電業協会会員各位が高い技術力を発揮し、県民生活を支えていただきますよう期待いたしております。

最後になりましたが兵庫県電業協会の益々の発展と皆様方のご健勝、企業の繁栄を祈念し、30周年のお祝いの言葉といたします。



吉本副知事祝辞